

第25号

2006

11.25

マナビ通信

米沢鷹山大学本部だより



上杉雪灯籠まつり 30周年記念事業

～輝け米沢の未来！！

米沢3万世帯の希望のあかり～

火種30,000本 いろいろな場所で作っています。

各地区コミュニティセンターの職員や生涯学習関係者にも講習会があり、地区文化祭や各種行事等で製作しています。

10月に行われた生涯学習フェアでも大勢の方に作って頂きました。



開催30周年を迎える上杉雪灯籠まつり。

市民有志により始められたこのおまつりは、ともし火の数を増やし、米沢の冬を代表するおまつりとなりました。会場である上杉神社・松が岬公園一帯を飾る約300基の雪灯籠をはじめ、市内各所に雪灯籠や雪ぼんぼりが作られ盛り上がりを見せています。

このプロジェクトでは、雪灯籠まつりのコンセプトである「平和」「おもてなし」「市民参加」をもとに、市民（家庭）が雪灯籠まつりに参加することをねらいとし、市内全体にローソクの灯りを広げたいと考えています。

ローソクは手づくりで、前回の雪灯籠まつり・寺院・家庭の使用済みのものや不要のものを回収、提供いただいて再利用・製作しています。これまで、まつり実行委員会による各種イベントでの手づくりローソク体験コーナーのほか、市内のコミュニティセンターなどによる各地区単位の事業における製作が行われています。2月のまつりに向けトータルで3万本のローソクづくりを目指しています。

市役所にローソク回収ボックスを設置しています。また、コミュニティセンターでも設置しているところがありますので、不要となりましたローソクの提供にご協力ください。

おしよしなカレッジの様子を取材して皆さんにお伝えしていますが

いかがでしょうか？ 生涯学習フェアでは体験コーナーで多くの方に参加していただきました。学び・気づき・楽しさが伝わりましたか。これからもいろいろとお伝えしていきたいと思います。

はじめての仏教講座

関谷 寛明 氏

5月から毎月1回開催されてきた講座の最終回を取材しました。お釈迦様の生涯、仏教の歴史、教え、各宗派の違いを学んできて、最終日のこの日は「般若心経を読む」がテーマでした。会場をこれまでの文化センターから、小野川の大黒天に移し、涼とした雰囲気のみなぎっていました。お勤めの作法や意味の講義（数珠の持ち方一つにも意味があることを知りました）のあと、「般若心経」を講師に続き唱えました。最後は受講者だけで唱えました。

「仏教に限らず、宗教は人間の歴史の中で途絶えたことがない。それだけ必要だった。手を合わせ拜むことで、一人で生きているのではなく、仏様や家族に生かされているという感謝の心、相手を敬う心、反省の心、慈しみの心などが備わっていくのではないか」との講師の話が印象に残りました。受講者も皆さん満足な表情でした。私も心が洗われるような時間を過ごしました。

来年も講座を開きたいとのこと。楽しみです。

ふれあいの心理学

堀川 満香子 氏

この日は8人で、なごやかな雰囲気の中で、本格的なテキストを使い、心理学を学んでいました。日常の会話の中で、なかなか気づかない相手の気持ちや自分の気持ちに気づき、それを分析できれば、会話を続けることも止めることもできるわけです。何気なく交わす会話の中で、知らず知らず深いものがあつた事を学び、興味深い講座でした。



寄せ植え講座

石井 幸市 氏

「植える楽しみ・育てる生きがい・咲く喜び」と講師の花に対しての心得をお聞きしての講座のはじまりです。今回は自分で同種4色のピオラを選び植える事になり、配色に一苦勞の様子でした。数種類の花材を配するのも難しいけれど、一種類だけとなると咲き誇ったイメージが思い浮かばず彩りが分からないようで、となりの人の作品と見比べていました。「自分の作品が一番綺麗」と自信を持ちましょうとの講師の言葉に励まされ楽しい時間を過ごされていました。



林業裏方の体験講座

黒田 明雄 氏

4回目取材しました。講座の中で皮剥した山ぶどうの皮を使ってのかごの作成でした。あみかたを一つ間違えると、間違えたところまで戻ってやり直しになりたいへんそうでしたが、お互い教えあったり「昔の人はすごかったね」などと会話しながら、和やかな雰囲気の中、熱心に取り組み、出来上がった作品にも満足気でした。自然のものを活用し、手間をかけて実用物を作っていた昔の人の知恵や素晴らしさと講座実施者の黒田さんの熱意を感じました。



和紙で色紙飾り

鈴木 和子 氏

生涯学習フェスティバルに体験コーナーとして講師の方と受講生に参加していただきました。

展示コーナーでは短期間の講座で制作したとは思えない作品の数々が展示され見学者の目を引いていました。体験コーナーでは講座受講生が丁寧に指導し、「人に教えて自分も教わる」といった感じでハサミ使い・のりのつけ方・色紙への置き方等、小さい色紙飾りですがとても綺麗に仕上がっていました。



コラム りんごの話

米沢のりんごは古く、上杉藩興讓館の教師として着任された、英国人チャール・ダラス氏が明治8年にワインサップ（初日の出）を市内に植え付けたのがはじめとされています。

一方、明治9年館山の有志数人が、本県勸業寮より桜桃（さくらんぼ）苗木と共に配布を受け、屋敷地内に植え付けたのが「館山りんご」の発祥とされ、その後、全市いたるところにりんごの樹を見ない場所がないほど盛んに栽培されたそうである。

その後、成島山への栽培地を求めたこと、多くの品種改良と販路の拡大など、近代に見合った取り組みが行われ、百三十有余年の歳月が流れています。

今年も館山の街道を通ると真赤に色づいた「館山りんご」が、秋の澄んだ青い空と白い雲を背景に、目にすることが出来ました。（「館山りんご100年のあゆみ」より）

文責 我妻 淳一



行ってみようよ

コミュニティセンター

窪田コミュニティセンター

窪田コミュニティセンターには「水辺の楽校推進協議会」があります。置賜橋下の河川敷や川を利用した活動を行っています。白鳥の観察や世話も活動の一環です。

今年も窪田町の最上川河川敷置賜橋のもとに白鳥が飛来しました。(10月31日に初飛来)

市民の皆さん、白鳥を観察に来ませんか？水辺に集まる野鳥なども見ることが出来てとても楽しめます。



お知らせコーナー

募集がはじまります！

- 平成19年4月発行予定の「米沢鷹山大学ガイドブック」に掲載する、生涯学習関連の講座・イベントの情報
- 平成19年4月から開催する「市民おしよしなカレッジ」の講座実施者

〔募集期間〕

12月15日～1月31日

鷹山大学本部に置いてある所定の申し込み用紙に記入して提出してください。

* 白鳥が特に飛来する時期

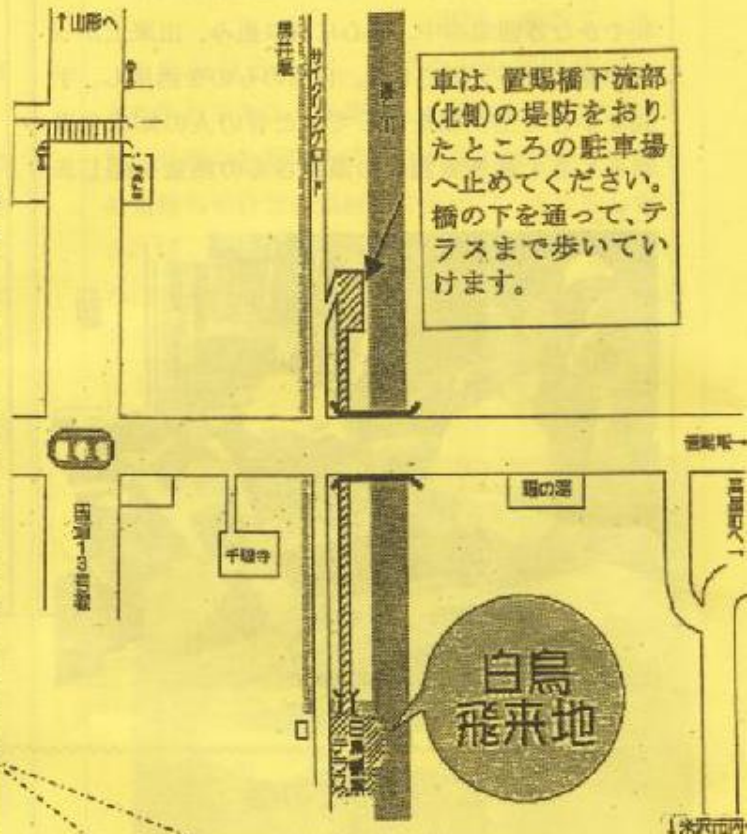
11月中旬～3月下旬

* 白鳥が見られる時間

朝方 6:00～8:00 (日の出)

夕方 4:00～5:00 (日の入)

日中は落穂拾いにあちこち出かけているので数羽しか観察できないかもしれません。



詳しい事は

窪田コミュニティセンターにおたずねください。

電話 37-5044

発行：米沢鷹山大学本部

マナピスト

事務局：〒992-0012 米沢市金池3-1-14

置賜総合文化センター4階

TEL 21-6111(内線 6423)

FAX 21-6020

ホームページアドレス

<http://yozan.educ.yonezawa.yamagata.jp/>